

編集委員会報告

編集委員会の 2019 年度事業報告です。『社会科研究』第 91 号、第 92 号を刊行しました。2020 年度の事業計画としては、第 93 号、第 94 号を刊行予定です。また『社会科研究』の掲載論文数の減少に伴う対策として、原稿応募規定の修正案をまとめ、理事会・総会に提案しました。またいわゆる質的研究等の調査研究の増加の傾向を踏まえ、『社会科研究』の原稿応募規程の見直し案についても検討中です。

1. 2019 (H31/R1) 年度 事業報告

1) 機関誌『社会科研究』第 91 号、第 92 号を刊行

2. 2020 (R 元) 年度 事業計画

1) 機関誌『社会科研究』第 93 号、第 94 号を刊行予定

2) 『社会科研究』原稿応募規程の修正案を審議

3) いわゆる質的研究等の調査研究の増加の傾向を踏まえ、『社会科研究』の原稿応募規程の見直し案について検討。

研究倫理等検討専門委員会報告

研究倫理等検討専門委員会では、2019 年度いわゆる質的研究等の調査研究の増加の傾向を踏まえ、研究倫理・投稿倫理・査読倫理等の規程や原稿応募規程の見直しについて検討してきました。2020 年度は、このうち『社会科研究』の原稿応募規程の見直しを検討し、編集委員会に修正案を提案しております。また、研究倫理・投稿倫理・査読倫理等の規程についても引き続き検討を進めています。

1. 2019 (H31/R1) 年度 事業報告

1) いわゆる質的研究等の調査研究の増加の傾向を踏まえ、研究倫理・投稿倫理・査読倫理等の規程や原稿応募規程の見直しについて検討。

2. 2020 (R2) 年度 事業計画

1) いわゆる質的研究等の調査研究の増加の傾向を踏まえ、『社会科研究』の原稿応募規程の見直し案について審議。

2) いわゆる質的研究等の調査研究の増加の傾向を踏まえ、研究倫理・投稿倫理・査読倫理等の規程の見直しについて検討。

研究委員会計画

2020年度に計画している研究委員会所掌の以下の業務についてご審議をお願いします。

1. 年報『社会科教育論叢』第51集の編集について
2. 研究推進プロジェクト事業について
3. 学会出版物の企画・編集について

I 年報『社会科教育論叢』第51集について（2020年度刊行予定）

○年報『社会科教育論叢』第51集－社会科教師教育研究の動向と課題－（構成案）

はじめに－なぜ今、社会科教育学研究において教師教育なのか－

棚橋 健治(広島大学)

第I部 国内の社会科教師教育研究の動向

1 教員志望学生を対象とした社会科教師教育の研究と実践

(1) 教員養成カリキュラムの研究と実践

－教科内容と教科教育の有効的関係の構築を目指して－

渡部 竜也(東京学芸大学)

(2) 教員養成カリキュラムにおける社会科志望学生に関する研究

大坂 遊(徳山大学)

(3) 教育実習の研究と実践

栗谷 好子(広島大学附属中・高等学校)

2 社会科教員を対象とした社会科教師教育の研究と実践

(1) ライフストーリーにみる社会科教師の力量形成

村井 大介(静岡大学)

(2) 校内研修における社会科教員の力量形成

胤森 裕暢(広島経済大学)

(3) 公的研修機関における社会科教員の力量形成

中本 和彦(龍谷大学)

(4) 自主的研究組織と社会科教師の多様性

－あるいはSNSという対抗的公共圏からの学会へのまなざし－

南浦 涼介(東京学芸大学)

(5) 教職大学院における社会科教員の力量形成

吉村 功太郎(宮崎大学)

第II部 諸外国の社会科教師教育研究の動向

(1) 米国における社会科教師教育研究の動向

渡邊 巧(広島大学)

(2) 欧州における社会科教師教育研究の動向

草原 和博(広島大学)

川口 広美(広島大学)

(3) 中国における社会科教師教育研究の動向

沈 曉敏（華東師範大学）依頼中
徐 菁怡（広島大学院生）

（4）韓国における社会科教師教育研究の動向

—歴史授業能力の育成を目指す韓国教師教育の研究動向と実践—

権 五鉉（慶尚大学校）依頼中
金 道練（広島大学院生）

○『社会科教育論叢』第51集 執筆要項

1. 概要

- ・誌名：年報『社会科教育論叢』第51集
- ・編者：全国社会科教育学会(研究委員会)
- ・体裁：一題目10頁以内、『社会科研究』投稿要領に準ずる（第91号参照）。ただし、英文要旨と日本語要旨、キーワードは不要。A4横書22字・42行・2段組（各冒頭頁のみ日本語題目・執筆者名・所属名に横書45字・10行・一段組，11行目からA4横書22字・32行・2段組）
- ・執筆者：全国社会科教育学会会員
- ・総頁数：120頁程度

2. 編集の方針

本誌では国内外の社会科教師教育研究の動向を整理します。第Ⅰ部は「研究と実践」という括りで、それぞれの執筆者がテーマにかかわる国内の研究動向を紹介するとともに、必要に応じて著者自身の研究・教師教育実践等を事例として紹介します。第Ⅱ部は諸外国の研究動向を紹介するとともに、特定の地域・大学等における日本とは異なる教師教育（システム）の特徴的な取組を紹介します。

本誌を通して、社会科教師教育研究の視点や方法等を会員相互に、ならびに会員以外の方も含めて広く共有し、今後の社会科教師教育の実践と研究の発展に寄与したいと思います。

3. スケジュール

- ・一次原稿〆切：2020年8月31日（月）
- ・執筆者への研究委員会からの原稿調整依頼：2020年11月30日（月）
- ・最終原稿〆切：2020年12月末
- ・刊行：2021（令和3）年3月下旬予定

4. 連絡先・原稿送付先

原稿は、データとそれをプリントアウトしたもの（A4版縦方向）をお送りください。データはメール添付で、紙媒体は郵送でお願いいたします。原稿送付先ならびにお問い合わせ先は次の通りです。

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 島根大学大学院教育学研究科 加藤寿朗

メール kato@edu.shimane-u.ac.jp

電話 0852-32-6286

Ⅱ 学会の出版物および研究プロジェクトの企画（案）

1 名称

『優れた社会科授業の多様性—型にはまらない授業を創る面白さ—』

2 コンセプト

（1）本書のねらい

2007年に「優れた社会科授業の条件」という2冊本が全国社会科教育学会から出版された。当時、社会科が誕生して以来50年の研究成果の一部として、幅広く学習指導案を収集・分析し、その結果を社会科授業スタンダード（条件）として体系的に示したものであった。この出版物のもとになった『社会科教育論叢』第44集（2005）の巻頭「優れた社会科授業スタンダード共同研究について」には、「スタンダードを超えての社会科授業が開発されていることを期待している」とある。

あれから15年、社会が大きく変化する中で、私たちは自立した教師として、自らの意思決定によって、複数の授業の可能性のなかから選択するゲートキーピング力が求められている。そこで本出版では、同じ内容（テーマ）でありながらも多様な授業を提案することで、「なぜそのような授業になるのか」を、紙面を借りて自由闊達に主張を交わせる場とし、「スタンダードを超えた社会科授業の開発」の期待に応えたい。

(2) 方法

- ① 研究委員会が、それぞれの授業を創る座長と学年を指名する。
- ② 座長は、単元（小単元）を指定する。
- ③ 座長は、その単元（小単元）の授業を創り合うメンバー3人を集める。各メンバーは、「こういう状況を想定し、こういう視点で授業を創れば、このような面白い授業ができる」という提案（5～6時間分程度）をする。場合によっては単元を超えた発想の授業でもよい。ねらいの違いを踏まえ、授業の提案は必ずしも同じ形式の学習指導案でなくてもよい。
- ④ 座長は、それぞれの授業のよさのポイントを解説する。

(3) 総頁数（『新社会科授業づくりハンドブック』に準ずる）

- ① A5版（横組み） 250頁程度
- ② 全10グループ 小3～6年，中（地理，歴史，公民），高（地理総合，歴史総合，公共）
- ③ 1グループは座長も含め4人 授業の提案（6頁×3人）＋座長（4頁） 計220頁
- ④ まえがき，目次，第1章，あとがき，執筆者一覧

3 出版社

〇〇出版と交渉→木村会長，加藤副会長（研究委員会）

4 編集・出版スケジュール

2020年10月 常任理事会に企画書（案）提案

2020年10月 理事会で企画書承認

2020年11月 座長の指名

2020年12月 座長が授業とメンバー3名を指名，執筆依頼と許諾の集約

2021年6月 メンバーが座長に原稿提出

2021年10月 座長の解説を含めすべての原稿提出

2021年11月 編集担当者に原稿受け渡し，段組み・校正へ

2022年4月 出版（新学期の授業や各学会の研究大会に間に合わせる）

5 目次構成

書名『優れた社会科授業の多様性 ―型にはまらない授業を創る面白さ―』

まえがき

第1章 型にはまらない授業を創る面白さ

第2章 小学校における優れた社会科授業の多様性

第1節 小学校第3学年 共通テーマ「〇〇」の授業をつくるー

(1) 提案1 「 」

(2) 提案2 「 」

(3) 提案3 「 」

(4) コーディネータのコメントー多様性の意味ー

第2節 小学校4学年

第3節 小学校5学年

第4節 小学校6学年

第3章 中学校における優れた社会科授業の多様性

第1節 地理的分野

第2節 歴史的分野

第3節 公民的分野

第4章 高等学校における優れた社会系科目の授業の多様性

第1節 地理歴史科地理総合

第2節 地理歴史科歴史総合

第3節 公民科公共

あとがき

執筆者一覧

〈参考〉2000年以降の学会としての出版物

- ・2001 『社会科教育学研究ハンドブック』
- ・2007 『小学校の“優れた社会科授業”の条件』←『社会科教育論叢』第44集
- ・2007 『中学校・高校の“優れた社会科授業”の条件』←『社会科教育論叢』第46集
- ・2011 『社会科教育実践ハンドブック』
- ・2015 『新社会科授業づくりハンドブック 小学校編』
- ・2015 『新社会科授業づくりハンドブック 中学校編』

Ⅲ 研究推進プロジェクト事業について

以下の内容で、2021年度の研究推進プロジェクトを募集（〆切：2021年3月1日）する。研究委員会において、研究成果への期待、テーマの重要性、実践・研究への貢献等の観点から申請内容について審査を行い、採択を決定する。

研究推進プロジェクトの募集について

1. 全国社会科教育学会「研究推進プロジェクト」（以下、「プロジェクト」と表記）は、全国社会科教育学会（以下、「本会」と表記）が、現職教員、大学院生および研究者等が連携して実施する研究会・研修等の事業を幅広く支援し、会員の活動を活性化させることを目的とする。
2. 本プロジェクトでは、会員が企画し、運営する研究・研修等の事業を、原則として1件5万円を上限に、年間3件程度を助成する。助成による事業の期間は、公募締め切りの翌年度1年間とする。

3. 助成対象事業は、本会会員を研究代表者とするグループによるものとする。本会会員以外の者がグループの構成員となることはできるが、代表者は本会会員でなければならない。
4. 助成を希望するグループの代表者は、申請書を所定の様式（学会ホームページより取得したもの）で、本会の研究委員会に電子メールで提出する。同委員会において提案を審査し、採否を決定する。
5. 学会による研究推進プロジェクトであることに鑑み、以下の基準で審査する。
 - （1）単年度の研究でも一定の成果が期待できるもの。
 - （2）当該研究グループ以外の社会科教育関係者にとっても、広く、その究明が課題となっているもの。
 - （3）社会科教育実践あるいは社会科教育学研究の発展に寄与することが展望できるもの。
6. 申請の締め切りは、事業実施前年度の3月1日とする。
7. 助成事業は、全国社会科教育学会との共催事業となり、ホームページ等に予告や成果を掲載する。採択された事業の案内、プログラム等には、「共催 全国社会科教育学会」と記載する。
8. 助成期間終了後、3ヶ月以内に所定の様式（学会ホームページより取得したもの）で事業報告書（成果報告ならびに会計報告）を電子メール添付で提出する。
9. 助成期間終了後、2年以内に、本学会の研究大会で発表することを原則とする
10. 本要項は、2018年10月21日より適用する。

2020 年度 全国社会科教育学会 国際委員会報告・審議

【報告事項】

1 日韓交流会 2020 年度開催（延期）鹿児島大学 2021 年度検討中

2 国際委員会－JSSEA 関係

- 1 第 9 号の進捗状況について
- 2 第 10 号の広報の状況について
- 3 ISSA brief について
- 4 ISSA forum について

1. 9 号の発刊
2. 10 号の広報状況について
 - ・テーマ：“How should social studies deal with and contribute to achieving Sustainable Development Goals?”

<http://jerass.com/jssea/2020/07/08/call-for-special-issue-of-jssea-vol-10/>

号	スペシャル・イシュー	アーティクル	レビュー
7号 2018	4本	2本	3本（インドネシア，日本2本）
8号 2019	1本	1本	2本（韓国・日本）
9号 2020	2本	0本	2本（ミャンマー，韓国）
10号 2021	4本	1本	3本

3. ISSA activity brief について

<https://jerass.jp/archives/280> 先日発刊されました。各学会・講座での広報をお願いします。

4. ISSA forum について

Theme: How can social studies contribute to achieving Sustainable Development Goals? Focus on SDG3—Teaching and Learning of “Health and Disease.”

Date: **January 24, 2021 (Sun)** Time: 15:00–16:30 (Japan) 14:00–15:30 (Singapore)

Presenters and titles:

- (1) Dr. Chew Hung Chang (National Institute of Education, Nanyang Technological University, Singapore): What does future-ready social studies education look like? Insights from teaching and learning geography.

- (2) Dr. Yoshiyasu Ida (University of Tsukuba, Japan): TBA
Language: English.

【審議・承認事項】 国際委員会の動き・予算

1. 11 号以降の状況について ・editorial を執筆する担当者を国際委員から 1 名決定

⇒役割：テーマ案の決定（最終は JSSEA 編集委員会で）、全社の ISSA フォーラム，editorial 執筆

号	質問	参加国	担当
7号	Why should we research the social studies education in Asia?	シンガポール①日本① インドネシア①香港①	川口・金
8号	How can social studies education answer to the needs of society?	韓国①	川口・金
9号	How can social studies relate to youth civic engagement?	シンガポール① 日本①	川口・金
10号 (2021)	How should social studies contribute to achieving Sustainable Development Goals?	シンガポール① 日本①	吉水・阪上

第 3 回 国際委員会

※担当者を暫定的に決定。テーマと call for について今後検討。先の方まで載せられるようにしておく。

・国際委員会と専門委員会の関係性について ・JSSEA 編集委員会をどのように組織化するか